

不入山麓物語

19世紀はじめの文化年代、船が
長者への通路が開かれた。
うさぎとした森林の中を通るので
「うさぎ谷」と呼ばれていた
ため「くらがり谷」と呼ばれていた
ところもある。
タヌキにばかされるということは、人に
自然と交信する能力があったということ。
テレビが普及して、その能力が失われた。

不入山 1,336m。周辺の
山々より、ひととき高く
そびえ立つ。
約千ハ79-10の国有林。

大引割、小引割へ

ヤマセミ

矢筈峠

県道378号

矢筈沢

風力発電の風車が
空に映える

義堂と絶海

14世紀 義堂周信と絶海中津が
船戸近く生まれ、ともに秀才で、のちに
五山文学の双璧と称えられる。
二人とも五台山吸江庵の南無夢想疎石の
弟子となり、仏門に入り禅を極め、
絶海の生まれた年が1336年!!
不入山の標高と一致している。
不入山麓の雲気に生きて二人の
活躍は大自然、不入山から
出する文化であった。

森の巨人百歳
モミノキ

船戸林道

樹雨(きさめ)

霧が葉、ほかに
たまって林内に
しずくが落ちる。
数ある雨の中で、
もっとも静かな。

南一周コース

源流点

源水点

源水点

源水点

源水点

源水点

源水点

源水点

源水点

源水点

源水点

源水点

源水点

源水点

源水点

源水点

源水点

津野山めぐり

11-2-7が6-8、目が大きい
ロープ、短い特徴がある。

水のこども
みくまりちゃん

森林の中で、森の
いのちのほとぎれる
ことなく巡る。
一年にも四季が回り
ひと巡り、小川はた
とどこで橋に
年輪がくさるように。
いのちの車輪がくさる。

小筋畝山

小筋畝山はコウヤマキの
林木遺伝資源保存林。
コウヤマキの原生林が
のこされている。
耐朽性が強く、船材や
土台、風呂として使われる。
日本書記に、木の神
スサノミコトが、板いた
尻毛が、植になすと記され、
高野山に多いことから
この名が付いた。

小筋畝山コウヤマキ保護林

キツネノカミソリ

夏

大王コウヤマキ

ムササビ岩

不入溪谷-望。カスミシ見える。

森林軌道の橋跡

寺川

北川

川

芳生野

断崖にくりぬいた
森林軌道遺構

不入山開山
ずい道

雨の日に表れる滝

不入林道

不入溪谷

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山

不入山の歴史

土佐藩において森林の管理統制が確立
するのは元禄3年(1690年)。
それ以前から土佐の木は朝廷と幕府へ
献上したり、大坂へ商売として販売してきた。
そのため森林資源の保護、育成に留意し
優良な森林を御留山として用い込み
伐採はもとより、入山も厳しく禁止されてきた。
明治2年(1869年)版籍奉還が行なわれ
明治4年、土藩置県などの制度改革を
経ながら、所有権の確立しない森林を
国有林へ用い込んでいった。

「キビ」 古くから焼畑農業を営み
ソバ、ヒエ、キビなどが作られていた。
特にキビは「喜美」とも書かれ、
キビの生産の多い村を「キビ村」と
呼ぶ。家の運命を決める重要な
食料であり、武器となった。
釜の柄にかけて乾かされた。
18平家と「キビ」を
鷹家の経済力を示すものと
されてきた。

枝ヶ谷

郷
地

王在家

平成食

食

食

食

食

食

食

食

食

食

食

食

食

食

食

食

食

食

食

食

食

食

食

食

食

食

食

木材搬出は
命がけの仕事。
山師たちは自分の
命をかける
トビやツルは他人に
絶対にさわうとしない。

森林軌道

かつて木材搬出には森林軌道が利用されていた。
不入山も敷設時期は不明だが、昭和28年~
39年まで活躍していた。
5.23kmの延長があった。牛馬~トロッコへ
運搬動力が変化していた。線後は7.7km変えていく。

軌道跡

参考文献

「高知の森林」

2013.7.25

